

大学院生のための 様々な制度をご用意しました！

TOPICS
1
各種奨励金制度

TOPICS
2
長期履修制度

TOPICS
3
リサーチ・
アシスタント制度

TOPICS
4
学外研究資金の
獲得支援

1 各種奨励金制度

詳細はこちら ➤



大学院在学中の研究活動をサポートするため、3つの奨励金制度を導入しています。

在学中から学会に参加したり、学会誌等に論文を投稿したりするなど、研究活動を積極的に行なうことは、皆さんの論文作成や進路選択にとって、たいへん役立ちます。これらの奨励金制度を有効に活用して、充実した大学院生活を送る手助けしてください。

✓ 大学院学会奨励金（対象：修士課程・博士前期課程・博士後期課程）

学会に参加する際の交通費、宿泊費や参加費等を助成する制度です。

種類	支給額（一律）	支給回数上限*	
		修士・博士前期課程	博士後期課程
1 参加のみ	20,000円	年次毎に いずれか1回まで	年次毎に いずれか2回まで
2 発表あり（国内）	50,000円		
3 発表あり（海外）	100,000円		

✓ 大学院論文投稿支援金（対象：修士課程・博士前期課程・博士後期課程）

学会誌や学術誌への論文投稿にかかる費用を助成します。

■ 要件

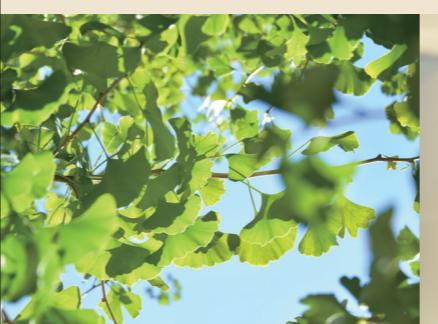
本学大学院の学生として投稿する場合に限る。

共著の場合は、筆頭著者として投稿した論文であること。

■ 支給基準

1.論文作成・投稿経費（実費：上限50,000円／年）

2.作成にかかる翻訳料、英文等校閲料、または投稿料、掲載料、オープンアクセス料等、別刷・抜刷代（実費：上限10,000円／年）



2 長期履修制度

「長期履修制度」とは、就労や育児・介護等の事情があり、大学院所定の標準修業年限で修了することが困難な社会人にも修学機会を拡大するための制度です。修士課程・博士前期課程において通常2年の修業年限を3年または4年に延長し、大学院生のライフイベントによる状況の変化に、柔軟に対応します。

■ 対象

- 職業を有している者（臨時雇用者及び自営業従事者を含む）
- 育児あるいは介護等の事情を有する者
- その他、特別な事由があり研究科委員会で相当と認められた者

■ 申請時期・決定

申請は大学院出願時のみ受け付けます。出願時に申請しない場合、原則としてその後の変更は認めません。申請可否は、合否判定とともに決定します。

■ 修業年限・在学年限

修業年限：3年または4年とします。

在学可能年限：修業年限が3年の者は4年、修業年限が4年の者は5年とします。

■ 履修単位数制限

1年あたりの履修単位の上限は定めません。

✓ 修業年限の変更／長期履修学生への変更について

1 修業年限の変更を希望する場合

長期履修学生として入学後、やむを得ない理由で修業年限の変更を希望する者は、研究科委員会で認められた場合に限り、2年次進級時に修業年限を変更することができます。

2 標準学生から長期履修学生への変更を希望する場合

標準学生として入学後、やむを得ない理由で長期履修学生への変更を希望する者は、研究科委員会で認められた場合に限り、2年次進級時に長期履修学生に移行することができます。この場合、修業年限は3年または4年とします。

3 再入学者について

再入学者についても、研究科委員会で認められた場合に限り①、②の申請が可能です。ただし、再入学の時点で2年次以上に再入学した場合はこの変更是できません。

INTERVIEW



長期履修制度利用者の声

各分野のプロフェッショナルのもとで学べる魅力。

近代フランス美術について研究しています。仕事を続けながらの大学院進学は難しいと諦めかけていましたが、実践女子大学では美術史について広く学べること、さらに長期履修制度があることを知り「他の学生の半分のスピードなら、自分にもできるかもしれない」「学びたいと思ったときが最大のチャンス」と、思い切って挑戦しました。仕事との両立は容易ではないですが、授業に出て課題も提出できています。研究の時間は、仕事を忘れて好きなことに没頭できる貴重なひととき。この時間があるから、仕事も頑張れます。

黒田 見友君さん
文学研究科 美術史学専攻
博士前期課程 2年

リサーチ・アシスタント制度

大学院博士後期課程の在学者を対象として、RA(リサーチ・アシスタント)の制度を導入します。RAに任用されることで、本学の研究プロジェクト等に補助者として参加し、給与を得ながら、研究活動に携わることができます。

RA(リサーチ・アシスタント)とは……

優秀な博士後期課程の大学院生が、大学が行う研究プロジェクト等に研究補助者として参画し、これに対する手当での支給を受けることにより、研究遂行能力の育成や研究体制の充実を図るものです。(文部科学省の定義より)

詳細はこちら



要件

(2024年4月時点)

本学の大学院博士後期課程に在籍していること。
本学が行う研究プロジェクト等に参加し、年度内に6か月以上、研究補助業務に携わること。
将来、研究者になる意欲と優れた能力を有すること。

待遇

※その他、本学規定による。

給与 時給2,000円
勤務時間 週15時間かつ年間360時間を上限とする。
通勤交通費 原則は支給無し。(ただし長期休暇中の勤務については、所属キャンパスまでの交通費実費を支給。)

手続

必要書類(採用計画書、履歴書)をもとに所属する研究科の会議で審議し決定する。

詳細は指導教員と相談のこと。

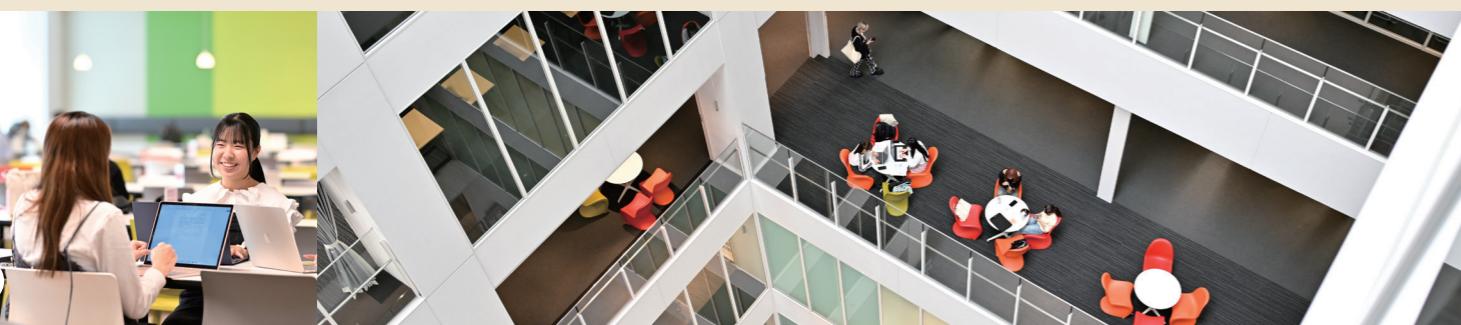
学外研究資金の獲得支援

学外団体が公募する研究資金の獲得は、安定した大学院生生活や、研究活動の高度化につながります。

本学では次のような取組みにより、学外研究資金の獲得支援を行っています。

- 学外研究資金に関する情報発信の強化
- 学外研究資金の申請書類作成支援
- 日本学術振興会特別研究員の申請書類作成支援
- 学外研究資金の申請に関する相談窓口の設置(研究推進室)

詳細はこちら



学費

2025年度(実績) 大学院入学学費等納付金一覧

2025年度入学学費等納付金は、以下一覧をご参照ください。(学費の消費税は非課税です。)

[単位:円]

標準修業年

区分	研究科名	専攻名	課程	学 費			他の納付金 学生教育研究 災害傷害保険	入学手続時 納付金合計	後期納付金 (10月)	初年度 納付金 合 計
				入学金	授業料 (前期分)	施設設備費				
一般	文学研究科	国文学専攻	博士前期課程	230,000	350,000	45,000	2,080	627,080	395,000	1,022,080
		美術史学専攻	博士後期課程	230,000	350,000	45,000	3,120	628,120	395,000	1,023,120
		英文学専攻	修士課程	230,000	350,000	45,000	2,080	627,080	395,000	1,022,080
	人間社会研究科	人間社会専攻	修士課程	115,000 [年額] ※1	350,000	—	—	465,000	—	465,000
		食物栄養学専攻	博士前期課程	230,000	360,000	45,000	2,080	637,080	405,000	1,042,080
		生活環境学専攻	博士後期課程	230,000	360,000	45,000	3,120	638,120	405,000	1,043,120
	生活科学研究科	修士課程	研究生	115,000 [年額] ※1	360,000	—	—	475,000	—	475,000
		国文学専攻	博士前期課程	50,000	350,000	45,000	2,080	447,080	395,000	842,080
		美術史学専攻	博士後期課程	50,000	350,000	45,000	3,120	448,120	395,000	843,120
	内部	英文学専攻	修士課程	50,000	350,000	45,000	2,080	447,080	395,000	842,080
		人間社会専攻	修士課程	57,500 [年額] ※1	350,000	—	—	407,500	—	407,500
		食物栄養学専攻	博士前期課程	50,000	360,000	45,000	2,080	457,080	405,000	862,080
	生活科学研究科	博士後期課程	修士課程	50,000	360,000	45,000	3,120	458,120	405,000	863,120
		生活環境学専攻	修士課程	50,000	360,000	45,000	2,080	457,080	405,000	862,080
	研究生	国文学専攻	博士前期課程	57,500 [年額] ※1	360,000	—	—	417,500	—	417,500
備考					後期授業料は 前期と同額	年額 90,000	入学時 1 回 ※修業年限に より異なる			
					(※1)研究期間が 6ヶ月の場合は半額					

※学生教育研究災害傷害保険の金額は、(公財)日本国際教育支援協会の保険料の見直しによっては変更となる場合があります。 ※次年度以降の学費等は経済変動にともない改定することがあります。

長期履修(3年)

区分	研究科名	専攻名	課程	学 費			他の納付金 学生教育研究 災害傷害保険	入学手続時 納付金合計	後期納付金 (10月)	初年度 納付金 合 計
				入学金	授業料 (前期分)	施設設備費				
一般	文学研究科	国文学専攻	博士前期課程	230,000	(※2) 230,000	30,000	3,120	493,120	260,000	753,120
		美術史学専攻	修士課程	230,000	(※2) 230,000	30,000	3,120	493,120	260,000	753,120
		英文学専攻	修士課程	230,000	(※2) 230,000	30,000	3,120	493,120	260,000	753,120
	人間社会研究科	人間社会専攻	修士課程	230,000	(※2) 230,000	30,000	3,120	493,120	260,000	753,120
		食物栄養学専攻	博士前期課程	230,000	240,000	30,000	3,120	503,120	270,000	773,120
		生活環境学専攻	修士課程	230,000	240,000	30,000	3,120	503,120	270,000	773,120
	生活科学研究科	国文学専攻	博士前期課程	50,000	(※2) 230,000	30,000	3,120	313,120	260,000	573,120
		美術史学専攻	修士課程	50,000	(※2) 230,000	30,000	3,120	313,120	260,000	573,120
		英文学専攻	修士課程	50,000	(※2) 230,000	30,000	3,120	313,120	260,000	573,120
	備考					後期授業料は 前期と同額	年額 60,000	入学時 1 回 ※修業年限に より異なる		
					(※2) 文学研究科、 人間社会研究科の 3年目は240,000					

※学生教育研究災害傷害保険の金額は、(公財)日本国際教育支援協会の保険料の見直しによっては変更となる場合があります。 ※次年度以降の学費等は経済変動にともない改定することがあります。

長期履修(4年)

区分	研究科名	専攻名	課程	学 費			他の納付金 学生教育研究 災害傷害保険	入学手続時 納付金合計	後期納付金 (10月)	初年度 納付金 合 計
				入学金	授業料 (前期分)	施設設備費				
一般	文学研究科	国文学専攻	博士前期課程	230,000	175,000	22,500	4,010	431,510	197,500	629,010

修士課程	生活環境学専攻 : 6名
博士前期課程	食物栄養学専攻 : 6名
博士後期課程	食物栄養学専攻 : 2名

生活科学研究科

研究科の概要

社会や生活と深く関連のある2専攻を設置しています。

食物栄養学専攻

【博士前期課程・博士後期課程】

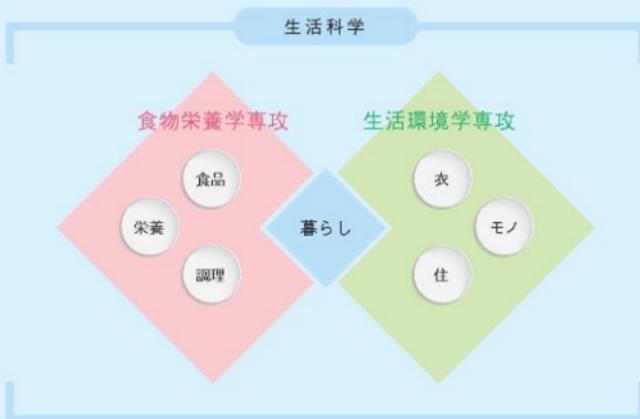
栄養学、食品学、調理学あるいは生理学等に関する高度な知識と研究遂行能力を身につけます。博士前期課程では、自身が定めた研究課題に取り組み、修士論文にまとめます。博士後期課程では、さらなる学識の向上を目指すとともに、學術的価値の高い論文を作成します。

生活環境学専攻

【修士課程】

生活環境を構成する「衣」「モノ」「住」の分野における実務と研究能力を磨きます。そのため、人間中心設計学、生活材料科学、衣環境設計学、住環境設計学、環境文化学の各分野での高度な知識と修士論文、修士設計、修士制作の作成過程における研究能力をバランスよく高めています。研究成果は専門学会等で発表します。一級建築士受験資格の実務経験(1年)の要件を満たせるカリキュラム構成となっています。

研究領域の概念図



◆ 養成する人材像

食物栄養学専攻

栄養学、食品学、調理学、生理学の知識を活かし、研究職、教育職、高度な専門職へ。

より深い研究に取り組むことで、基礎的あるいは実践的な研究・開発を行う研究職、教育職、および高度な専門的知識を持つ栄養士・管理栄養士や専門技術者を養成します。

キャリアパス（修了後の生涯イメージ）

研究・教育(大学、研究機関、企業)/医療・福祉(管理栄養士、行政栄養士)/一般企業(食品開発、スポーツ栄養士、栄養アドバイザー等)/公務員、国際機関(厚生労働省、JICA)/独立開業/進学 等

生活環境学専攻

「衣」「モノ」「住」の分野を中心に社会で活躍する専門家を養成。

「衣」「モノ」「住」コミュニティに開かれる高度な知識を身に付け、さらに「生活の文化的側面」を理解した専門家を養成します。実務と研究について十分な知識と遂行能力を養い、職業人として長く活躍できる基盤を築きます。

キャリアパス（修了後の生涯イメージ）

一級建築士/検査機関(建築、織物、アパレル分野)/デザイナー／研究職(大学等)/進学 等

食物栄養学専攻

※2025年4月時点での情報となります。(定年退職などの退職予定者含む)

専任教員プロフィール

大道 公秀

専門分野: 食品衛生学、考古化学
最近の研究テーマ等: ①カビ毒の安定性と類縁体の探索、②古代食解明に向けた考古化学的アプローチ

於保 祐子

専門分野: 小児科学、代謝学、分子遺伝学
最近の研究テーマ等: 食行動について、発達過程の遺伝的プログラムとその制御に関する事象を、分子レベルから臨床まで幅広い視点で研究する

筧 慎治

専門分野: 生理学、病態生理学、神経解剖学
最近の研究テーマ等: ①神経疾患の簡便かつ非侵襲的な病態評価方法の確立、②小児の運動機能発達の研究

数野 千恵子

専門分野: 調理科学
最近の研究テーマ等: ①水の硬度および水素イオン濃度が調理性に与える影響、②食器の色や絵柄が料理のおいしさに与える影響

佐々木 溪円

専門分野: 公衆衛生学、小児保健学
最近の研究テーマ等: ①健やか親子21(第2次)の目標達成に関する母子保健領域の研究、②食物アレルギーに関する社会医学からのアプローチ

白尾 美佳

専門分野: 食品栄養学
最近の研究テーマ等: ①食品中の機能性物質に関する研究、②食品栄養成分の鏡像異性体に関する研究、③各ライフステージにおける食嗜好や食育に関する研究

杉山 靖正

専門分野: 食品分析学、天然物化学
最近の研究テーマ等: ①食品に含まれる機能性物質の化学構造および含有量の決定、②低利用および未利用資源の食品への有効活用

鈴木 浩明

専門分野: 臨床栄養学、内分泌代謝学
最近の研究テーマ等: ①2型糖尿病患者における栄養療法と運動療法による筋力強化および転倒予防、②アミノ酸代謝産物とがんとの関連

中村 彰男

専門分野: 栄養生化学、分子栄養学
最近の研究テーマ等: ①胎児期の栄養が生まれた子の将来の疾病に及ぼす影響、②エクソソームを用いた新規バイオマーカーの探索

奈良 一寛

専門分野: 食品化学
最近の研究テーマ等: ①新たな食資源の有効活用法の探索、②調理加工による食品成分の変動とその利用

長谷川 めぐみ

専門分野: 國際栄養学、栄養教育、公衆栄養学
最近の研究テーマ等: ①開発途上国における栄養教育ツールの開発、②アジア、アフリカ諸国における学校給食の意義と栄養教育との関連

カリキュラム

博士前期課程 カリキュラム

科目名	単位数
栄養学特論A・B・C・D	選択各2単位
栄養学演習	選択2単位
栄養学実験	選択2単位
生理学特論A・B・C	選択各2単位
食品学特論A・B・C	選択各2単位
食品学演習	選択2単位
食品学実験	選択2単位
公衆衛生学特論	選択2単位
食品衛生学特論	選択2単位
高分子化学特論	選択2単位
調理科学特論A・B・C	選択各2単位
食物栄養学特別講義A・B・C	選択各2単位
特別研究	必修12単位

博士後期課程 カリキュラム

科目名	単位数
栄養学特別演習A・B・C・D	選択各2単位
食品学特別演習A・B・C	選択各2単位
食品衛生学特別演習	選択2単位
調理科学特別演習A・B	選択各2単位
生理学特別演習	選択2単位
博士特別研究	必修8単位

専任教員プロフィール

安齋 利典

専門分野: プロダクトデザイン、ヒューマンセンタードデザイン
最近の研究テーマ等: プロダクトデザイン教育に関する研究、BioB 機器の操作性 / UX に関する研究

大川 知子

専門分野: ファッションビジネス・企業経営史
最近の研究テーマ等: ファッション関連企業の経営と事業戦略、日本における欧米ファッションの受容など

加藤木 秀章

専門分野: 繊維工学、テキスタイル材料、複合材料工学
最近の研究テーマ等: 表面処理を施した天然繊維の特性、繊維を用いたエコマテリアルの創製とその特性

笠原 良太

専門分野: 家族社会学、ライフコース論、家族関係学
最近の研究テーマ等: 産業構造転換と子どもの発達・人生移行、高年期における人生回顧・再検討、教育実践の社会史・アーカイビング

作田 由衣子

専門分野: 認知心理学、知覚心理学
最近の研究テーマ等: ①印象の知覚が記憶に及ぼす影響、②乳幼児でも顔から印象を知覚できるかなど

佐藤 健

専門分野: 人間工学
最近の研究テーマ等: ①日常生活における安全行動と事故要因に関する研究、②高齢者・障がい者の運動機能に関する研究

塩原 みゆき

専門分野: 被服整理学、染色加工
最近の研究テーマ等: 家庭洗濯から排出される繊維クズの回収、ストッキング・タイツの紫外線防御効果

科目紹介 [一部抜粋]

博士前期課程

◆ 栄養学特論 A

栄養がヒトの健康に与える影響について、栄養素が、細胞の代謝に与える影響から、ヒトの健康に及ぼす影響について英文原著を精読して最新の見知りを理解する、論述の様式や検証法の組み立て、考察の展開法も深めていく。

◆ 栄養学特論 B

人の体と栄養との関係、特に個別の遺伝学的背景にあった栄養攝取について、分子レベルの現象として理解を深める。各自が課題を設定し、英文も含めて論文を輪読することで、課題を解決する過程を学ぶ。

◆ 栄養学実験

無菌操作に基づいた細胞培養法を習得し、数種の培養細胞を用いた実験を行う。栄養学の研究に欠かせない個体、組織、細胞を用いた系に関する基礎的な実験技術の習得を目的とする。

◆ 生理学特論 A

疾病的成り立ちが分子レベルで明らかになり、多くの薬物が開発されている。体内において薬物がどのような仕組みで働くかについて、分子レベルでの理解を深めることを目的とする。

博士後期課程

◆ 食品学特論 A

日本および世界の食料事情にも目を向けながら、農林水産物の特徴や有用性について理解を深め、有効な利用法について考えていく。さらに、原著論文の購読やそれについてのプレゼンテーションも行い、研究の組み立てや結果の伝え方についても修得する。

◆ 食品学特別演習 C

ライフサイエンス分野の最新の英語論文を精読し、ピアレビューを行なうながら、データのまとめ方や論文投稿のプロセスを学びます。また、研究資金の調達方法や、研究者倫理・生命倫理についても解説します。

◆ 食品学特別演習 C

特定保健用食品および機能性の作用メカニズムの解析が行われている食品を題材にして、機能性食品の作用機序、有効性、安全性に関する学術論文の解説を行い、機能性食品の研究手法と解析・実証方法を学ぶ。

◆ 生理学特別演習

この演習授業では筋細胞を構成しているタンパク質とその遺伝子発現機構について学習し、骨格筋の可塑性について理解を深めることを目的とする。

科目紹介 [一部抜粋]

◆ 人間中心設計学演習 A

環境生物学、環境科学、人理人類学、人間工学、工業デザイン等の中から、学生にとって有用なテーマについて実験を行う。なお、実験器具の制作や加工技術の体験等を行うこともある。

◆ 人間中心設計学特論 B

近年、生体信号を用いて、福祉機器の制御や評価を行う試みが進められている。そのため必要な生体信号とその処理の方法について学修する。理論や計算だけでなく、信号処理ソフトによる演習も行う。

◆ 人間中心設計学特論 C

プロダクトデザインの手法や理念は企業が経営戦略として活用しており、アパレルや建築、農業の領域にまでおよぶ。そこで、モノ作りからマーケティングまで、プロダクトデザインの世界を広く解説する。

◆ 生活材料科学特論 B

経済発展や大量生産・消費・廃棄の生活により様々な環境問題が生じていることに気付き、環境に配慮した持続可能な生活を実現するための基本的な環境科学を学習します。

◆ 生活材料科学実験 B

自然エネルギーの一つであるバイオマスの燃料化などの実験に取り組み、有機エネルギー資源の基本的な実験操作、及び有機化学の基本的な機器分析を修得する。特にバイオマス資源から様々な燃料(化石資源代替燃料)が得られること、その問題点を実践的に理解する。

◆ 生活材料科学実験 C

染色・加工された被服材料やインテリア材料などを適切な維持管理する上で必要な、それら素材の構造、物性、特性について学び、染色加工の工程や消費性能についても理解を深める。

◆ 環境文化学演習 B

「建築理論の創造」をテキストに講義する。同書第2部の「実体的理論—環境と人間の行動」を中心に、環境行動研究アプローチからインテリア・建築・都市などの環境デザインについて議論する。

◆ 住環境設計学演習 C

特定の実在する具体的な環境のもと、その物理的条件や周辺環境、地域性、社会性を分析した上で、各自が考える空間思想に基づいて新たなプログラムやスペースのデザインに取り組む。

◆ 環境文化学演習 C

史実やその文化的背景を探りながら、ファッションに関する多様な文化について、19世紀半ばから現代に至る変遷を、文化的な視点から検証する。

◆ 建築インターナーシップ

一級建築士受験資格(実務経験)の要件を満たすこと前提としている。設計・工事監理の実務や実践的な建築設計を行う。

専任教員プロフィール

須賀 由紀子

専門分野: 余暇・生活文化学、地域文化形成論
最近の研究テーマ等: 多世代交流のコミュニケーション・ツール開発、地域の価値共有手法の開発、スポーツと地域活性、関係人口と地域自立社会の形成

高橋 桂子

専門分野: 生活経営学、生活経済学
最近の研究テーマ等: ①大学生の金融リテラシーに関する実態調査、②父親の家事参加が子の非認知能力に与える影響に関する研究

滝澤 愛

専門分野: ファッションデザイン、被服構成学
最近の研究テーマ等: 日仏のファッションデザイン教育比較の研究、20世紀初頭フランスのパターン研究、和式洋裁の実態的研究

橋 弘志

専門分野: 建築計画学、環境行動研究
最近の研究テーマ等: 高齢者や子供のための居住施設の計画・評価、人子供の発達環境としての住まい、都市の魅力に関する研究など

内藤 将俊

専門分野: 建築・都市デザイン、建築計画、市民ワークショップ
最近の研究テーマ等: 盲老人ホームにおける入居者の行動分析に関する研究、設計・施工監理の実践による先進的空間思想の構築に関する研究

槇 究

専門分野: 環境心理学、色彩計画
最近の研究テーマ等: インテリア・ファッションなどのカラーコーディネート印象評価研究、夜間街路の光環境ガイドラインに関する研究、人の存在が街並み評価に及ぼす影響など

カリキュラム